

## 石川さん連載

写真は中日新聞 2 月 10 日の社会面である。元同僚の石川洋明さんの写真と懐かしき人文社会学部 203 教室が載っている。がんが見つかる前年、石川さんらしい元気そうな写真に引きつけられる。「未完の論文ある社会学者の死」と題した連載の担当は、編集委員の安藤明夫さんである。

安藤さんとは、一昨年暮れに中日新聞社でお会いしてから知り合った。私がコーディネーターの講義を担当してもらうためだ。その時にも、石川さんのことが話題になった。石川さんは昨年 6 月 30 日に亡くなった。

石川さんのことを記事にしたいとのことで、私の思いを語ったこともある。いつ記事が掲載されるか心待ちにしていた。たぶん「生活欄」に載ると思い、いつもチェックしてきた。こうして連載が始まり、それも「社会面」トップであり嬉しいかぎりだ。

連載 1 回は「最後の講義 絶望しない姿 教えた」である。昨年 6 月 27 日 2 限目の 203 教室での講義から話は始まる。

じつは石川さんが講義していることは、お通夜のときに学生から聞いて知った。親友の吉田一彦さんがいうように、「彼の執念をだれも止められなかった」のだろう。石川さんの 203 教室での講義風景が目に浮ぶ。在職中、石川さんのことが心配であり、こっそり教室を遠くから覗いたことを思い起す。

「打ちのめされ、絶望してもおかしくない悲劇が重なる中で、石川は気力を奮い立たせた。愛する妻子を守れなかったことへの償いの思いを込め、事件の再発を防ぐための研究に情熱を注いだ。石川の終末期から、人生、仕事、家族の意味を見つめたい」と、連載 1 回目は結ばれている。

(2015 年 2 月 13 日)

